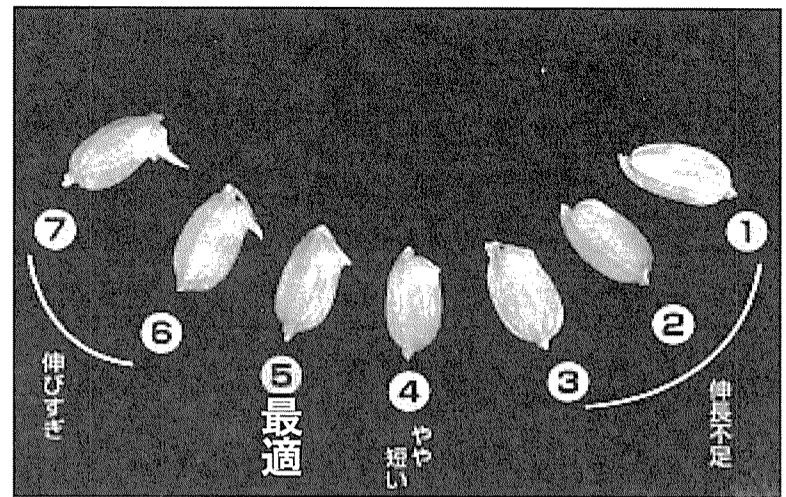


### 3. 催芽

- ・催芽は、原則育苗器(蒸気式)を使用しましょう。
- ・催芽の温度は30~32℃としましょう。
- ・催芽中は種籾袋を度々反転させ、温度ムラを無くし、芽の揃いを整えましょう。
- ・芽長は、1~2mmの「ハト胸」状態になっていることを確認しましょう。

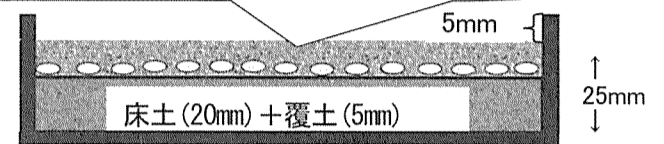


芽出しの様子

### 4. 播種 ~田植えに応じた播種を実施しましょう~

- ・芽出し籾は、握っても手に付かない程度にまで陰干ししましょう。
- ・品種、催芽状況、種子の乾き具合により種子の落下量が異なるので、**作業を始める前に試し播き**を行い、播種量を調整、確認しましょう。  
(コシヒカリの種籾は、浸種後の状態で150g/箱)
- ・覆土は、箱当り1kg(5mmの厚さ)を目安に的確に行いましょう。(転び苗等の防止)
- ・かん水量は、播種までに床土表面の水が引き、覆土後に覆土表面に水がにじみ出る程度としましょう。
- ・タフブロックによる種子消毒を行った場合は、**ダコレート**を使用しないでください。

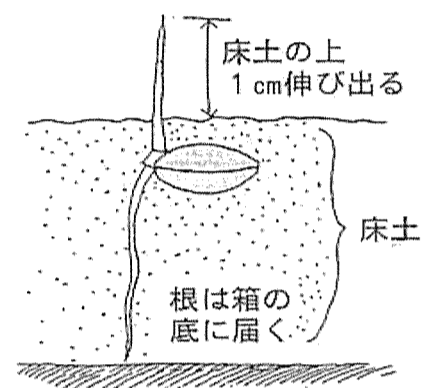
覆土を入れる際は、育苗箱の上面よりやや少なめとして、灌水時に培土が十分に吸水できるようにしましょう。



播種時の床土・覆土の様子

### 5. 出芽

- ・出芽温度は30℃を厳守しましょう。  
(29℃以下だと出芽が遅れ芽揃いが悪く、30℃以上になると細菌病等が出やすくなります)
- ・途中、こまめに出芽状況を確認しましょう。  
**(棚上段の出芽状況で判断せず、棚中段の出芽状況(目標1cm)を確認しましょう)**



搬出時の芽の様子

### 6. 搬出作業

- ・出芽完了苗は、原則早朝に搬出しましょう。
- ・搬出後は覆土が落ち着く程度のかん水を基本としますが、晴天等で気温が高まる場合が予想される場合は十分なかん水を行いましょう。
- ・種籾が露出している場合は、覆土を加えるとともに、搬出後は緑化のために寒冷紗等により2~3日の間遮光に努めてください。
- ・**ハウス内の温度が高い(25℃を超える)場合は、搬出直後でも苗がやけないように換気をしてください。**

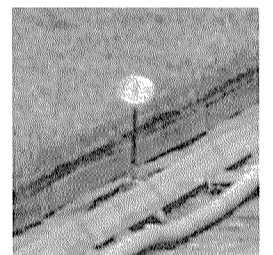
### 7. 育苗管理

#### ①緑化期

- ・昼は、**25℃を超えないように**、夜は10℃以下とならないように注意ください。
- ※**25℃を超えると、やけ苗や細菌性病害の発生が助長されます。**
- ・10℃以下になると、生育停滞やムレ苗の発生につながるため、ストーブ等による加温をしてください。
- ・苗が緑化した段階で、速やかに被覆資材をはずします。

育苗ハウス内には、必ず**温度計**を苗の高さに設置しましょう。

苗のステージ		出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数		3日	2~3日	13~15日
温度	昼	30℃	20℃~25℃	
	夜	30℃	10℃以上	



ハウス内の温度計

#### ②硬化期

- ・晴れた日はハウスをあげ換気をしましょう。ハウス内の温度は、**昼は20℃~25℃以下、夜は10℃以上**に保ってください。
- ・硬化期のかん水は、1日1~2回とし、早朝に箱の底まで十分に水が浸透するよう、たっぷりかけてください。
- ・**田植えの1週間前頃からは夜もハウスを開け、外気に慣らし、硬くがっちりした苗にしましょう！！**

#### ③育苗ハウスの強風対策

- ・近年、春先の強風により育苗ハウス被害が見受けられます。強風が予想される場合には、予めハウスバンドや防風ネット等の点検・補強に努めましょう。

### 8. 基肥量について

- 基肥量は、土壌条件や前作等を考慮した「施肥基準」を遵守してください。
- ※具体的な施肥量は、「平成29年度 冬期座談会資料」の24~25ページの施肥設計例を参考としてください。

### 9. 農作業安全について

- ・春の農繁期を迎えます。作業機械の整備のほか、作業場の危険個所を事前に把握、緊急連絡先の周知(分りやすい場所に掲示する)等、作業に入る前に皆で確認する機会を設けましょう。(とやま GAP 規範にも記載されています。ご参照ください)

平成29年度「春の農作業安全運動」 実施期間 4月1日~5月31日